

本プレスリリースの情報解禁日時は  
2024年12月26日(木)以降です。

令和6年12月26日  
写真文化首都「写真の町」北海道東川町

## 東川町と北海道新聞社が連携 アイヌ共生プロジェクト 「カムイのうたの学校」をスタート

北海道東川町では、多様な文化と国内外の交流を推進し、多文化共生のまちづくりに取り組んでいます。その一環として、2023年には大雪山文化と、大雪山のふとこで生きるアイヌの文化を広めるとともに、差別のない世界（＝多文化共生社会）を次世代に伝えることを目的に、東川町とさまざまな機関・団体と連携して“オール北海道”で作り上げた映画「カムイのうた」を製作。

2024年はその映画に込められた想いを、若い世代をはじめより多くの方に気軽に触れていただけるよう、(株)北海道新聞社と連携してアイヌ共生プロジェクト「カムイのうたの学校」を発足し、多文化共生社会の実現と継承に取り組んでいきます。

### ●プロジェクトロゴ



誰もが気軽に立ち寄り、アイヌ文化について学べるように「学校」と名付けました。

老若男女にアイヌ文化の素晴らしさと、多文化共生の大切さが伝わるように、多様な文化が共存する様子と、温かみが感じられる印象を、カラフルなデザインで表現しています。

### ●プロジェクト実施内容 4つの柱を軸とした様々な施策を展開していきます。

#### ① 総合普及啓発施策

本プロジェクトの受け皿として様々なコンテンツ発信を行うWEBサイトの整備

➡ プロジェクトサイト <https://moula.jp/LP/kamui/>

(コンテンツ一例)

- ・知里幸恵さんについて
- ・映画「カムイのうた」ロケ地紹介
- ・アイヌ文化にかかわる人々（24名）へのインタビュー記事 など



#### ② アイヌ文化の学びデジタル教材制作施策

北海道の先住民族であるアイヌの人々について、子どもたちが自ずと興味を抱き、より深く知ってもらうために、いつでも手軽に無料で触れられる「デジタル教材」を制作。映画「カムイのうた」と親和性が高い内容にしているため、映画と一緒に読むとより一層深い理解が得られる作りになっています。

➡ デジタル教材閲覧・ダウンロード <https://moula.jp/LP/kamui/learn/>



本デジタル教材は、日本だけでなく世界の方々にアイヌ文化に興味をもらっていただくためのツールとして多言語（12言語）展開いたします。

- ①英語 ②ベトナム語 ③中国語（繁体） ④中国語（簡体） ⑤韓国語 ⑥タイ語 ⑦ラトビア語  
⑧ミャンマー語 ⑨インドネシア語 ⑩ウズベク語 ⑪フランス語 ⑫ロシア語

2025年3月  
公開予定

### ③ 道内小学生向け施策

北海道新聞が発行することも向け新聞「まなぶん」とタイアップし、紙面を通じて、道内の小学生に向けてアイヌ文化に興味を知ってもらうコンテンツ発信を行います。

<仕様> ・発行日：2025年1～3月に発行予定 ・配布エリア：全道の北海道新聞購読世帯へ配布

### ④ 映画「カムイのうた」地域上映施策

北海道が世界に誇るアイヌ文化に多くの方が触れていただけるよう、イベントホールや公民館、学校施設などの会場をご用意できる方に、映画「カムイのうた」の映像媒体を貸出し、地域や団体のみなさまでこの映画の上映会を開催していただく事が可能です。

➡ 地域上映の申込 <https://moula.jp/LP/kamui/screen/>

#### ●映画「カムイのうた」について

北海道東川町では、1903年に生まれ、19歳の若さで亡くなったアイヌ文化伝承者・知里幸恵（ちり・ゆきえ）さんをモデルに、日本の先住民族であるアイヌ民族とその文化の素晴らしさ・重要性を伝え、差別のない世界を目指すために映画「カムイのうた」を製作しました。

2023年11月23日より北海道内で先行上映が始まり、2024年1月26日からは全国の劇場で上映され、2024年12月現在までで全国70館以上の劇場で公開されました。



#### 世界の映画祭で多数の作品賞を受賞

- カルカッタ国際カルト映画祭（インド）：2023年8月-9月国際長編映画部門作品賞 受賞
- モントリオール・インディペンデント映画祭（カナダ）：2023年秋優秀長編映画 選出
- グランド・シネ・カーニバルモルディブ（モルディブ）：2023年9月長編映画部門 特別賞
- ハーキュリーインディペンデント映画祭（スペイン）：2023年9月長編映画部門 佳作



## ●映画「カムイのうた」ストーリー

アイヌの心には、カムイ（神）が宿る――

学業優秀なテルは女学校への進学を希望し、優秀な成績を残すのだが、アイヌというだけで結果は不合格。その後、1917年（大正6年）、アイヌとして初めて女子職業学校に入学したが、土人（どじん）と呼ばれ理不尽な差別といじめを受ける。

ある日、東京から列車を乗り継ぎアイヌ語研究の第一人者である兼田教授がテルの伯母イヌイエマツを訪ねてやって来る。アイヌの叙事詩であるユーカラを聞きにきたのだ。伯母のユーカラに熱心に耳を傾ける教授が言った。「アイヌ民族であることを誇りに思ってください。あなた方は世界に類をみない唯一無二の民族だ」

教授の言葉に強く心を打たれたテルは、やがて教授の強い勧めでユーカラを文字で残すことに没頭していく。

そしてアイヌ語を日本語に翻訳していく出来栄えの素晴らしさから、教授のいる東京で本格的に頑張ることに。同じアイヌの青年・一三四（ひさし）と伯母に見送られ東京へと向かうテルだったが、この時、再び北海道の地を踏むことが叶わない運命であることを知る由もなかった…。

## ●映画「カムイのうた」キャスト・製作概要



テル役  
吉田美月喜  
(よしだ・みづき)



イヌイエマツ役  
島田歌穂  
(しまだ・かほ)



兼田教授役  
加藤雅也  
(かとう・まさや)



一三四（ひさし）役  
望月歩  
(もちづき・あゆむ)



兼田静役  
清水美砂  
(しみず・みさ)

監督／脚本：菅原浩志  
主演：吉田美月喜  
製作：シネボイス  
製作賛助：写真文化首都 北海道「写真の町」東川町、川村久恵／旭川アイヌ協議会  
アイヌ語・アイヌ文化監修：藤村久和

## ●映画「カムイのうた」情報について

➡ 映画「カムイのうた」公式サイト <https://kamuinouta.jp/>

➡ 映画「カムイのうた」上映劇場情報 <https://kamuinouta.jp/theater/>

## ●北海道東川町について

北海道のほぼ中央に位置し、北海道最高峰の旭岳（2,291m）をはじめ、美しい田園風景の広がる人口約8,500人の自然豊かな町です。「東川」はアイヌ語のチュブペツ（Chup Pet）の意識であり、「水源が東にあり日月の出る処」から名付けられたものとされています。稲作を中心とした農業と、木工業、観光業が主な産業です。大雪山からの伏流水の恵みを一身にうけ、全国でも珍しく全戸が地下水で生活しています。町の東部は日本最大級の大雪山国立公園に含まれ、可憐な高山植物、鮮やかな紅葉、一面のパウダースノーなどが特徴として挙げられます。登山をはじめとしたアクティビティなど、四季折々の姿で世界中の旅行者を魅了しています。1985年には写真の町を宣言し、「写真映りの良い町」を目指し、写真文化を中心に国内外との交流を進めるなど、文化を通じたまちづくりに取り組んでいます。また、家具の産地でもあり、旭川家具の主要産地となっているほか、日本初の公立日本語学校を開設し、日本語留学生在が暮らすなど国際交流が盛んな町でもあります。



## ●映画「カムイのうた」・アイヌ共生プロジェクト「カムイのうたの学校」に込める願い

北海道には、言語、宗教、文化に独自性を持つ先住民族であるアイヌの人々が暮らしています。アイヌ語は文字を持たず、長い間、口語伝承によって受け継がれてきました。その中で、知里幸恵さんは、自身の命を懸けて「アイヌ語」を文字として記録し、後世に伝えるという大きな功績を残しました。

映画『カムイのうた』は、大雪山の雄大な自然を背景に、知里幸恵さんの半生をモデルにした物語です。この作品は、アイヌ民族が受け継いできた文化の重要性を伝えるとともに、差別のない世界を目指すためのメッセージを込めて製作されました。アイヌの人々が暮らしてきた豊かな自然環境と、厳しい社会環境を描くことで、文化や価値観の多様性がもたらす尊さを伝えています。

この映画とプロジェクトが、差別や迫害の歴史だけでなく、現代社会にも存在する「いじめ」「差別」「紛争」といった問題に目を向けるきっかけとなれば幸いです。そして、次世代を担う人々にとって、国内外の社会問題を解決し、共生共和共栄の社会を築くための一助となることを願っています。



## ●本件に関するお問い合わせについて

写真文化首都 北海道「写真の町」東川町 文化交流課

Tel : 0166-82-2111 (代表)

FAX : 0166-82-5111

Email : [kouryu@town.higashikawa.lg.jp](mailto:kouryu@town.higashikawa.lg.jp)